【令和5年度全国学力・学習状況調査分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立志賀中学校

〇調査目的	◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

今年度の全国学力・学習状況調査は、「国語」・「数学」・「英語」の3教科で実施されました。3教科すべてが全国や県の平均を上回る結果となり、特に「英語」については高い水準となりました。生徒質問紙では「規範意識」の項目で平均を上回る一方で、「自己有用感」・「生活習慣・学習習慣」の項目には課題が見られました。

《強み・弱み》

国語では、「自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く」・「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」などの***【我が国の言語文化に関する事項】***や、「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える」・「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」といった***【書くこと】***の領域に強みが表れました。一方で、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる***【言葉の特徴や使い方に関する事項】***に弱みが見られました。

数学では、「方程式の理解・計算」・「文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現する」などの***【数と式】***に関する領域に強みが表れました。一方で、「累積度数・四分位範囲の意味を理解する」・「データの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」といった***【データの活用】***に弱みが見られました。

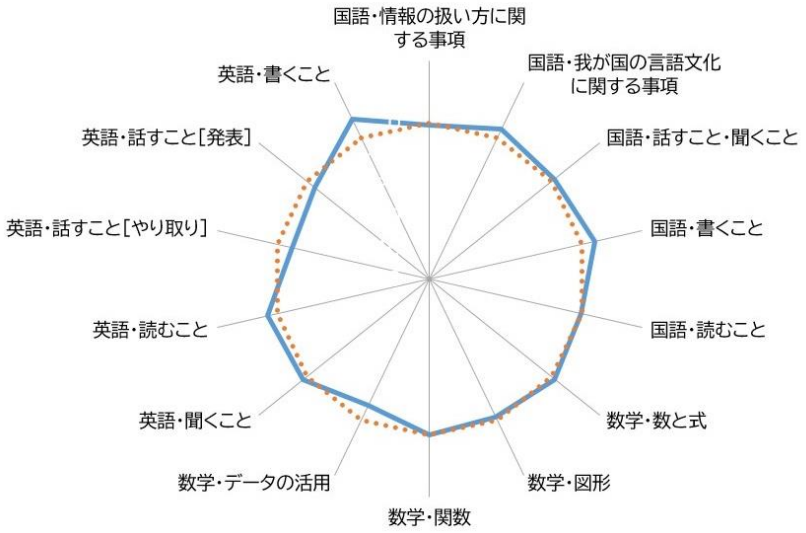
英語では、***【聞くこと】・【読むこと】・【書くこと】***のいずれにおいても正答率が高く、とりわけ「書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」・「英文を依頼する表現に書き換える」といった***【書くこと】***の領域で強みが顕著に表れました。一方で***【話すこと】***調査においては、「即興で伝え合うこと」「日常的・社会的な話題に関して自分の考えとその理由を述べ合うこと」に課題があり、タブレットを使った調査のため、限られた時間の中での回答に不慣れな状況の中で戸惑う生徒も多く見られました。

生徒質問紙では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」といった***【規範意識】***に関する質問で肯定的な回答が多く見られました。一方で、「自分には、よいところがあると思いますか」・「将来の夢や目標を持っていますか」などの***【自己有用感】***や、「毎日、同じくらいの時刻に寝て（起きて）いますか」「計画を立てて勉強していますか」といった***【生活習慣・学習習慣】***に関する事項の改善に向けた取り組みが必要です。

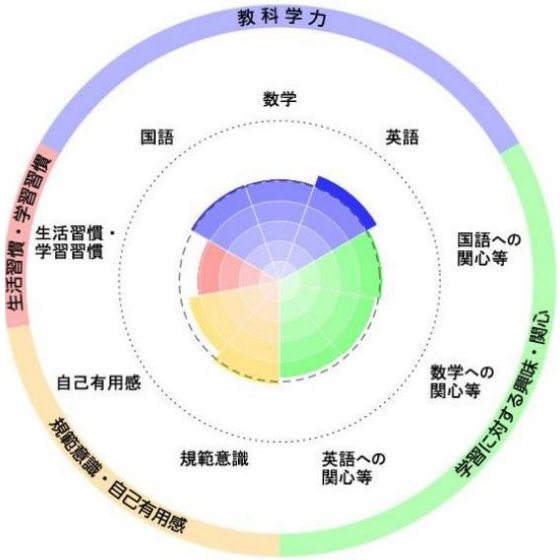
【強み・弱みレーダーチャート】

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

3教科 学習指導要領の内容・領域の傾向　　志賀中　中央値



生徒質問紙（全国基準）



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。
※破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

【指導の充実に向けて】

今年度の結果を受け、志賀中学校のこれまでの取り組み、校内研究と関連付けながら、次の取り組みを進めていきます。

① 生徒の行動目標『あいのしが』（あいさつ・いのち・のびのび・しんせつ・がっつ）の推進。**【望ましい生活習慣・学習習慣の育成】**
② 学級活動や学校行事、生徒会活動を通して、豊かな人間関係の構築を目指す。**【自己有用感の向上、互恵的な集団づくり】**
③ 4人グループの活動を軸に、“生徒のつながり・対話”を育む。**【学びに向かう力、表現力の育成】**
④ タブレットを有効に活用し、“生徒の学びの可能性”を広げる。**【情報・データ活用能力の育成】**
⑤ 授業の課題設定を工夫し、“主体的・対話的で深い学び”を生む。**【協同的な学びのある授業づくり】**